

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520354

研究課題名(和文)ドイツ語圏におけるクルド移民文学の現状

研究課題名(英文)Contemporary Kurdish Literature in Exile in German-speaking Countries

研究代表者

シュペヒト テレーザ (Specht, Theresa)

大阪大学・文学研究科・講師

研究者番号：40622519

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、移民クルド人作家の作品研究とりわけドイツ語圏へと移住しドイツ語によって執筆された作品の研究であった。移民文学をめぐる研究は数多くあるが、本研究のフィールドであるクルド人作家作品の研究は皆無である。こうした研究状況を受けて、本研究はまず作品だけでなく作者である移民クルド人作家についての調査から着手した。

移民クルド人作家の作品を理解する上で、クルド人作家たちが移住へと至る過程そして移民後に彼らがおかれている政治状況について明らかにしなければならない。本研究では、トルコのクルド人居住区でのフィールド調査を行い、また作家たちを日本に招き、クルド問題をめぐる講演会や討論会を企画した。

研究成果の概要(英文)：This research project investigated on Kurdish literature in exile, that focus on the Kurdish region from the perspective of affected people, in a German speaking context. As analysis of this literature is very scarce, the first aim was to provide a general overview about authors and their works, main topics and questions for further investigation.

To get a deeper understanding of the political background this literature emerges from, a journey has been made to the East of Turkey, and authors/artists have been invited to Osaka University to initiate a dialogue about the so called 'Kurdish issue' which till today is a continuous problem. Deeper analysis of selected literary works have been done, and in contrast to that, an analysis of the linguistic marking of 'Kurds' in the German-speaking context was able to show the impact of language on current political issues concerning the Kurdish region. The results of the research have been presented in different international contexts.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：ドイツ文学 移民文学 クルド トルコ 比較文学

1. 研究開始当初の背景

移民クルド人の作家の文学活動ならびにかれらの作品を総合的にとりあつかった研究はドイツ、トルコそして日本では発表されていない。このような研究状況をかんがみ、本研究では、主にドイツ語圏に移住しているクルド人作家ないしは、ドイツ語で作品を発表しているクルド人作家を対象としつつ、移民クルド人作家の創作活動を、かれらが直面している社会的、政治的な背景から総合的に描き出すことを目的としている。

2. 研究の目的

- (1) 作家および作品のリスト化：移民クルド人作家の文学の全体像の提供：ドイツ語圏ならびにドイツ語にて作品を発表しているクルド人作家の作品を中心に、その他、英語ならびにフランス語を通して作品を発表している作家ならびに彼らの作品のリストを作成する。
- (2) 文化的アイデンティティーと言語：上記(1)にてリスト化した作家の作品をベースとしつつ、なかでもドイツ語圏ならびにドイツ語による作品を選び出し、移民クルド人作家の文化的アイデンティティーがどのように作品に描き込まれているかという視点から作品の分析をおこなう。かれらの母語であるクルド語、そして出身国であるトルコおよびクルドの伝統や文化、そして作品を発表するために彼らを選び出したドイツ語（もちろんかれらにとっては外国語）のはざままで、移民クルド人作家たちがどのような文化的アイデンティティーを構築していたのか、そしてかれらは実際のところどのような愛で点ティティーを保っているのかを明らかにする。

3. 研究の方法

研究の方法としては、以下の3つの方法をとった。

- (1) 作品の収集ならびに読解。ドイツおよびドイツ語にて発表されている作品を収集、また日々刻々と変化する彼らの政治的な立場をおさえるためにも、クルド人に関連する雑誌記事や新聞記事をはじめ、情報を幅広く収集し、研究を進める上での基盤として活用する。
- (2) 作家本人がどのような立場におかれているのか、移民状態にある作家はそれぞれ安定しておらず、作家それぞれにおかれている状況は非常にことなる。そのため、彼らのおかれている立場、かれらが自らの文化的アイデンティティーをどのようなものとして考えているのかを理解するためには、作家本人との直接の対話が必要である。それゆえ、本研究では、トルコおよびドイツに在住し、創作活動をおこなっている作家本人へのインタビューをおこなった。
- (3) クルド人作家を日本に招き、彼らの作品の紹介と同時に、かれらが置かれている状況、かれらがナショナリティーや文化的アイデンティティーをどのようなものと考えているかを、トルコとドイツという関係国ではない、日本という場において、日本の研究者と対話させることによって、これまでとは違った語りでの理解をめざした。

4. 研究成果

研究の成果は、おおきく2つの点にまとめることができる。

- (1) クルド人作家へのインタビュー：平成25年2月から3月にかけてトルコのクルド人居住地域へのフィールドワークをおこなった。現在この地域はイスラム

国との武力衝突のため文学研究者が立ち入ることはむずかしい。平成25年度に、フィールドワークを執行したことは結果として正解であったし、そこでえられた作家へのインタビュー記録は、貴重なものとなった。フィールドワークではクルド人がおかれている政治的状况について知ることができた。とりわけイスラム圏における女性の生活については外から知ることがむずかしい。しかし本フィールドワークにおいては、現地コーディネータを通して、女性をとりまく環境について実際に目にする事ができただけでなく、クルド人女性たちの数多くの証言を集めることができた。こうした調査により、クルド人作家の文学をこれまで以上に深く理解することが可能となった。

- (2) 本研究では、クルド人作家たちをまねいての国際シンポジウムを日本で2度開催することができた。平成25年度は、クルド人移民で現在ドイツにて活躍中のカバレティストであるムッシン・オムルジャ氏を日本に招き、大阪そして東京にて彼のパフォーマンスをおこなってもらった。クルドを題材とした時事問題などもパフォーマンスでは扱っていたが、日本の聴衆も理解できていたこと、またパフォーマンス後のディスカッションにて、日本の聴衆が、クルド人移民という問題について、そしてまたオムルジャ氏が自らの出自をパフォーマンスの題材とすることから、オムルジャ氏にとってのクルドそして現在生活しているドイツの意味について自然と議論が展開していったことはいまでも鮮明に覚えている。そして平成26年度には、同じくドイツ在住のドキュメンタリー映画監督のグルベヤズ氏を招いて、トル

コやクルドを題材としてドキュメンタリーの日本で初めて公開することができた。グルベヤズ氏を囲んでのディスカッションでも、グルベヤズ氏本人がクルド・トルコ・ドイツという三つの政治・文化体制のなかで自らのアイデンティティをどう考えているのかという点について議論が交わされた。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

SPECHT, Theresa, *Sprache und Conditio Humana. Sprachhandlung und Mehrsprachigkeit*, in Abdurrahman Gülbeyaz und Theresa Specht (ed.), *Konfliktgesellschaften/言語と人間性—コンフリクト社会に見る言語行為と多言語*. Osaka 2015

SPECHT, Theresa, *Deutsch/Türkisch. Mehrsprachigkeit im deutschen Kino der Gegenwart*, in: *Zwischen Kulturen und Medien*, Dortmund 2014, S. 3-21.

SPECHT, Theresa, *Komsiche Aplekte in Erwin Einzingers Gedichtband - Die virtuelle Forelle*, in: 『独文学報』2012, pp. 7-20.

[学会発表](計6件)

SPECHT, Theresa, *Either 'Turkish' or 'German'? – Unmasking the Illusion of National Identity. – The Asian Conference on Literature & Librarianship (LibrAsia): Individual, Community & Society: Conflict, Resolution & Synergy*, Osaka, April 3–6, 2014

SPECHT, Theresa, Flucht aus dem Dunkel:
Nihat Behrams Schwalben des verrückten
Lebens. – International Conference of the
Gesellschaft für interkulturelle
Germanistik (GiG): Begegnungen in
Transiträumen / Transitorische
Begegnungen, Limerick May 29 – June 1,
2014

SPECHT, Theresa, Sprachliche
Markierungen der ‚Kurden‘ im
deutschsprachigen Kontext. Zwischen
Nichtbeachtung und Kriminalisierung. –
Symposium: Sprache und die Conditio
Humana: Sozialer Konflikt und
Sprachverhalten. Der Europäische Umgang
mit den Kurden. Universität Osaka,
November 2, 2014

SPECHT, Theresa, Transcultural Humour
in Contemporary Turkish-German
Literatur, How the Humanities and Social
Sciences Approach Cultural und Sociela
Changes in the Age of Globalisation (大阪大
学) 2013/5

SPECHT, Theresa, Kurdische Exilliteratur
im deutschsprachigen Kontext, JGG 2013
(東京外国語大学) 2013/5

SPECHT, Theresa, “Subversive
Performances des ‘Moslem’ in der
türkisch-deutschen Gegenwartsliteratur”,
10. Workshop des Netzwerks
Terrorismusforschung : Terrorismus und
(Inter-)Kulturalität, NTF (Netzwerks
Terrorismusforschung), Universität Mainz,
2012/3

{ 図書 } (計 0 件)

{ 産業財産権 }

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
取得年月日 :
国内外の別 :

{ その他 }
ホームページ等

6 . 研究組織
(1) 研究代表者
シュペヒト テレーザ
(Specht , Theresa)
大阪大学文学研究科特任講師
研究者番号 : 40622519

(2) 研究分担者
()

研究者番号 :

(3) 連携研究者
()

研究者番号 :